



今年の 11 月にも開催予定であるため、ホーチミン市の皆様も愛知にお越しいただき、参加していただければと思う。」と愛知県とホーチミン市の交流について、説明しました。

続けて、大村知事は、「今年9月から10月にかけて、愛知県においてアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が開催される。2023年の中国・杭州大会において、貴国は空手、射撃、セパタクロ、パラ水泳で金メダルをとっている。ベトナム選手の大会での活躍を期待している。」とアジア競技大会及びアジアパラ競技大会についてPRするとともに、「ホーチミン市のますますの御発展をお祈り申し上げる。」と発言しました。

これに対してアインセンター長は、「これまでは行政手続きを様々な部署が担当しており、市民が各地に行かなければならなかった。今回、これを一元化するアイデアがようやく実現した。今後、海外の行政サービスの経験を学んでいきたいと思っており、愛知県からも学ばせていただきたい。」と述べました。

これに対して大村知事は、「ホーチミン市において、市民生活を支える行政サービスを合理化するために、このような行政サービスセンターを作られたことは素晴らしいことだと思う。この取組が成功し、こういったセンターや取組が広がっていくことを期待する。」と応え、面談を終えました。



視察の様子



アイン センター長との面談の様子



アイン センター長とアジア・アジアパラ競技公式マスコット「ホノホン・ウズミン」



面談出席者との集合写真

### <ホーチミン市行政サービスセンター概要>

ホーチミン市人民委員会が所管する、2025年12月に設立された同市初の行政手続き窓口を集約した行政センター。

2025年7月にホーチミン市とビンズオン省、バリアブンタウ省が合併し、新たなホーチミン市となったことを受けて、市内および各部門に分散していた「ワンストップ窓口」を一元化し、市民や企業が一か所で行政手続きを行えるようにすることを目的として設立された。これにより、多くの分野（経済、産業、科学技術、福祉、農業、環境等）の手続きを、短い待ち時間でスムーズに受けられることとなる。

## 2 ホーチミン市都市鉄道管理委員会訪問

(担当：国際課)

### (1) 日時

2026年7月9日（木）午前10時15分から午前11時40分まで  
（日本時間7月9日（木）午後0時15分から午後1時40分まで）

### (2) 場所

ホーチミン市都市鉄道管理委員会（ホーチミン市）

### (3) 応対者

ファン・コン・バン ホーチミン市都市鉄道管理委員会委員長

### (4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

### (5) 内容

大村知事は、ホーチミン市都市鉄道管理委員会を訪問し、バン委員長から、2024年12月に開業した、ホーチミン市中心部（ベントイン駅）から北東部（スオイティエン駅）を結ぶ、ベトナム初の地下区間を有するメトロ1号線の概要、特徴、開発までの経緯や今後の開発計画等について説明を受けました。

説明に対し大村知事は、「昨日のホーチミン市人民委員会ハ常任副委員長との面談にて、ホーチミン市は昨年7月の合併により、面積が約3倍、人口は約1500万人となり、ベトナム経済の約3分の1を占めていると聞いた。ベトナム最大の人口、経済の中心都市において、多くの人の輸送を担っていることに敬意を表する。前回の2024年の訪問時はメトロ1号線は工事中であったため、本日このように説明を聞き、この後実際に乗車できることをとても楽しみにしている。開業して1年半、今後ますます発展されることを期待している。」と発言しました。

これに対しバン委員長は、「ホーチミン市メトロ計画は日本のODAとJICAの支援を受け、2007年にスタートしたが、法整備等の課題もあり、開業は2024年となった。現在は1日述べ6万人の方に乗車していただき、ホーチミン市民に愛用してもらっている。

今後1号線の延長工事等を考えており、我々は日本ブランドを高く信頼しているため、車両を提供してもらえらる日系企業があれば是非紹介してほしい。」と述べられました。

その後、メトロ1号線の実際に運行している路線（9駅の区間）に試乗しました。



バン委員長との面談の様子



バン委員長とアジア・アジアパラ競技大会公式マスコット「ホノホン・ウズミン」



面談出席者との記念撮影



メトロ1号線を視察する  
大村知事

#### <メトロ1号線概要>

○開業年月：2024年12月

○区 間：ホーチミン市中心部（ベンタイン駅）から北東部（スオイティエン駅）

○駅 数：14駅（地下区間：3駅、高架区間：11駅）

○概 要：日本の政府開発援助（ODA）及びJICAの支援により、市内の慢性的な交通渋滞の緩和や公共交通の促進を目的に整備された、ベトナム初の地下区間を有する都市鉄道。車両は日立製作所製。

### 3 ホーチミン市科学技術局との面談

（担当：国際課）

#### （1）日時

2026年7月9日（木）午後2時15分から午後3時20分まで

（日本時間7月9日（木）午後4時15分から午後5時20分まで）

(2) 場所

Startup & Innovation Hub of Ho Chi Minh City (ホーチミン市)

(3) 対応者

レー・ドク・タン ホーチミン市科学技術局局長

ダン・タン・ドク R&D研究所所長 (ベカメックス社傘下)

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、ホーチミン市科学技術局を訪問し、タン局長と面談しました。

大村知事は、「愛知県とホーチミン市は2016年9月に、私と当時のフォン ホーチミン市人民委員会委員長との間で、『友好交流及び相互協力に関する覚書』を締結した。以来10年間、友好関係、協力関係を積み重ねており、私のホーチミン市訪問はこれで5回目となる。毎年11月に愛知県では『ベトナムフェスティバルホーチミン in 愛知名古屋』を開催している。同フェスティバルは、広瀬ベトナムフェスティバル実行委員長 (ホーチミン・愛知観光大使) が中心となって開催されており、私も毎年参加している。」と愛知県とホーチミン市の交流を紹介するとともに、「愛知県にはトヨタ自動車を始めとする世界最大の自動車産業のクラスターがあり、航空宇宙産業やロボット産業等のハイテク産業が日本一集積している。愛知県からベトナムには、約210社の企業が進出して活発にビジネスを行っている。また、日本最大のスタートアップ支援拠点であるSTATION Aiを2024年10月にオープンし、イノベーションにも力を入れている。」と愛知県の経済について説明しました。

さらに、大村知事は、「愛知県では、今年9月から10月にかけてアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が開催され、ベトナムからも多くの選手が参加される。2023年の中国・杭州大会において、貴国は、空手、射撃、セパタクロー、パラ水泳で金メダルをとっている。また、ベトナムではサッカーも大変人気があると伺っているが、ベトナムのサッカーチームも参加することになっている。今回のアジア競技大会及びアジアパラ競技大会でもベトナム選手の活躍を期待している。」とアジア競技大会及びアジアパラ競技大会をPRしました。

これに対して、タン局長は、「今年は、ホーチミン市と愛知県の『友好交流及び相互協力に関する覚書』を締結して10周年というおめでたい年である。約210社の愛知県企業に進出いただいていることは嬉しい。今後、両都市の関係がより強くなることを期待している。知事の説明の中で、日本最大のスタートアップ支援拠点であるSTATION Aiの話は印象的であった。まさに、愛知県の産業は我々が目指すべきものである。ホーチミン市と愛知県の関係がより一層発展することを期待している。」と発言されました。

次に、ドク所長から、ホーチミン市北部ビンズン新都市において開発中のホーチミン市北部科学技術都市について説明を受け、「大学、研究所、ファンド、企業の支援が必要である。重要なのは、研究にとどまらず、その成果を企業に提供することであり、

工業団地との連携も必要になってくる。愛知県の研究所、大学、企業の方にも協力いただけたらと思う。」と発言がありました。

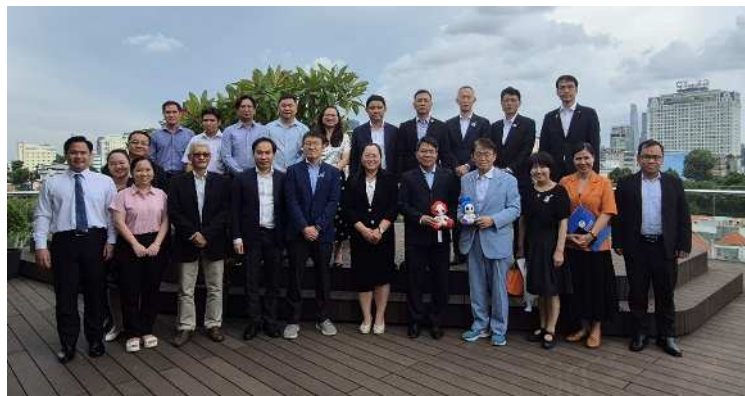
最後に大村知事から、「また具体的に協力できることがあれば、連絡いただけたらと思う。」と述べ、面談を締めくくりました。



ホーチミン市科学技術局との面談の様子



タン局長とアジア・アジアパラ競技大会公式マスコット「ホノホン・ウズミン」



面談出席者との記念撮影

#### <ホーチミン市科学技術局概要>

科学技術やイノベーション、デジタル化に関する政策立案・実施を担い、市の産業競争力向上や研究開発の促進を担当する、ホーチミン市人民委員会に属する行政機関。

#### <ホーチミン市北部科学技術都市概要>

ホーチミン市北部ビンズン新都市において開発中の、大学、研究機関などを集積させていく都市。2026年1月にホーチミン市人民委員会が開発計画を正式承認。

中核区域、イノベーション・研究ゾーン、ハイテク製造ベルトの3つの構造から成っており、完成時期は2030年代の予定。